

■ 知っ得コーナー ■

「徳本上人名号塔」をご存知ですか

平松 清廣

朝鮮人街道沿いに“浄土宗 正福寺”があります。正福寺は、安土問答で活躍した玉念上人が開創した寺院で、安土城下より現在地に移ったと伝えられています。

その門前に、何やらいわくありげな石塔を見受けることができます。そして、“徳本^④”と刻まれています。

この石塔は「徳本上人名号塔」といわれ、徳本上人が書いた独特な字の名号塔なのです。滋賀県内にはこの名号塔が30基ほどあります。徳本という僧は、江戸の後期に紀州～今の和歌山県日高郡日高町に生まれ、常人には及ばないような修行を行い、その説法が万人の心を捉えるような巧みな話術であったために爆発的な人気でした。それに加えて、誰もが一度も目にしたことのないような書体で、一風変わった神秘的な字での六字名号を書き、誰彼なしに与えて行きましたので、いつしか「徳本上人」と尊称で呼ばれるようになりました。今では徳本上人の名も一般的には消えたのですが、明治の頃は浄土宗門では、高僧としての名は相当に高かったといわれております。浄土宗捨世派第十世の門主が徳本上人でもあります。「徳本上人名号塔」は、上人の示寂後にその徳を慕って建てられていき、この特異な字の名号の功德を、一人でも多くの人々へ分かち与えようとして、石に刻み道端などに建てていきました。

徳本という個人の行者が、庶民からいかに慕われ、多くの信者を得ていたかを偲ぶことができます。では何故正福寺にあるかといいますと～西川利右衛門家より分家した「大文字屋 西川徳蔵」の二代目は熱心な仏教信者であり、徳本上人を自家の菩提寺である正福寺に招いたところから、六字の名号塔（碑）が建っています。また、徳本上人の袈裟が同寺の寺宝として大切に保存されています。

「私の趣味 音楽鑑賞」

～ 変遷し最終に「オペラ」 ～

伊東 章三

私の文化面での趣味は少なく、あえて挙げれば音楽鑑賞がその一つです。音痴ゆえ聴く方の趣味で最終的に辿り着いた音楽ジャンルを時代と共に以下に紹介します。

幼少期は父親の蓄音機を通して当時流行っていた三波春夫の「ちゃんちきおけさ」から始まり、高校生時代（蛭カラ派）はクラシック音楽が好きになり、その後学生時代から社会人に至るまでの好きなジャンルはフォーク→ニューミュージック→ロック&ハードロック→ジャズ（ピアノ曲）と変遷しています。最終的に落ち着いたのは30代後半から「オペラ」曲となり今も継続中です。

オペラに嵌まったきっかけは転勤で欧州（独）在住時の頃です。

偶然住んでいた小都市に立派なオペラハウスがあった事と、日本人で当オペラハウス専属オペラ歌手の方と知り合いになったのがオペラ好きの出発点となりました。そのオペラ歌手が出演される演目（モーツァルトの魔笛）に招待された事や、当地オペラハウス入場料は日本より安価で一階前列で観れた為、度々ベルディ、プッチーニ、ベッリーニ等の歌劇を観に行けた事で増々好きになりました。

オペラでは舞台・衣装・物語・歌等、全体が楽しめます。その中でやはり歌手に眼が行きます。自分的には伊人のキングオブハイCと謳われたルチアーノ・パパロッチーが素晴らしいと絶賛します。あののびやかなすき透った高音が非常に印象に残る名テナーでした。好きな曲は彼の「トスカ」演目でのアリア（星は光りぬ）です。又、余談ですが近世で伝説的名テナーと言えばエンリコ・カルーソー（伊人）が挙げられ、彼が歌う声はスピーカーから響いた音で横のテーブルにあったグラスコップを割ったという逸話も存在するぐらいの名テナー歌手でした。（二人とも故人です。）

一方女性歌手でファンになったのは皆さんもご存知のマリア・カラスです。近代&現代を通して不世出の「世界の歌姫」と称された最高のプリマドンナでした。彼女のソプラノはドラマチックで且つリリック&コロラトゥーラ唱法に抜きん出ていたのが特徴です。同世代のソプラノ歌手には非常に美しい声のライバル歌手（レナータ・デバルディー）も存在したが、オペラにおけるドラマチックな歌声は右に出る者はいませんでした。彼女はギリシャ系アメリカ人ですが、ヨーロッパの血が流れていたの（両親がギリシャ人）、イタリアオペラにぴったりだったと自身の感想です。最も絶好調で活躍した年代は1950年～1955年の間で特にベルディ、ベッリーニ、プッチーニの作品に多々登場しています。主な当たり役は“トスカ、椿姫、ノルマ、ルチア、清教徒”等があります。彼女は晩年日本にも来日して公演していますが（1970年代前半）、私は残念ながら聴きに行けませんでした。特に好きな曲はやはり「トスカ」でのアリア（歌に生き、愛に生き）と「ノルマ」でのアリア（清らかな女神）です。勿論この両演目も最高です。不運にも53歳の若さで故人となったが、未だに彼女の声は永遠に全世界のオペラファンに聴かれており、私も昨今のコロナ禍で自粛生活の中、自宅でもっぱらオペラのCDを静かに聴いている次第です。